

お知らせ



アプリ導入の期間限定サポートサービス！ 専用リーフレット300部を無料でお届けいたします！

＜I.B.MUSEUM SaaS＞に掲載されているスマートフォンアプリ「ポケット学芸員」「にっぽん風景なび」「浮世絵で歩く日本の名所」について、操作方法などを掲載した3つ折りのリーフレットを制作しました。

背表紙部分にサービス提供館のフロアマップや開館情報などを掲載できるようになっています。2018年4月から6月までの間にお申し出いただければ、300部を弊社にて印刷の上、印刷用データとともに無料で差し上げます。詳しくは改めてご案内いたしますので、ぜひご活用ください。



ここにフロアマップなどを入れます。データをお寄せいただければ挿入の上で印刷いたします。

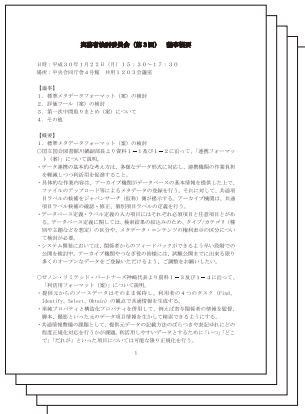
6月末まで。印刷物&データを無料でお届けしますので、お早めにお申し込みください！



これから注目しておきたい デジタルアーカイブをめぐる動き

内閣府のホームページに「デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会」の情報が開示されています。

昨年9月から会合が開催されているようですが、今年1月の会合資料は、とても具体的に踏み込んだ内容になっていました。標準メタデータフォーマットの案なども示されています。「ジャパンサーチ」の構築に向けての動きが加速してきたようですので、博物館の皆様はぜひご注目を。



デジタルアーカイブ推進委員会及び実務者検討委員会 実務者検討委員会(第3回)

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/jitumusya/dai3/gijisidai.html

この1月に行われた検討委員会の議事録も、下記URLにて公開されていますので、ぜひご一読を。

編・集・後・記

出張族の私たちは、「現地に到着したら、どこでランチを食べようか」と、スマホで飲食店を検索します。Googleの検索結果には、そのお店の定休日や開店時間が表示されますよね。もちろん、お店のサイトほどの正確性はないのですが、さざっと見たいときなどはとても便利で重宝します。でも、それって、検索してヒットしない「地域の名店」を素通りしているということでもあったりするのでは、と思ったりもします。

最近、Googleで作家(画家)を検索すると、彼らの作品だけでなく、一部の作家については展示中のミュージア

ムまで表示されるようになりました。展示中情報については、まだそれほど正確なものではないようですが、それでも利用者にとってはありがたいこと。私がランチスポットを探すような感覚で、Googleで展覧会情報を得ようとする人も出てくるかもしれません。となると、お店と同様に「Googleでヒットしないものは見過ごされてしまう」という話が現実のものになってきます。

それがよいこととは必ずしも思いませんが、「ネットに出した方が有利」という状況には、ますます拍車がかかることになりそうですね。



www.facebook.com/wasedasys
早稲田システム開発株式会社

MAPPS press

News Letter from MAPPS
2018.03
No.10

頑張り、ミュージアム。

発行元：早稲田システム開発 株式会社
東京都新宿区高田馬場4丁目40番17号
TEL.03-6457-8585 FAX.03-6279-3333
www.waseda.co.jp/

CONTENTS

参加レポート
「デザイン・アーカイブ」のシンポジウム
平成30年1月20日(土) 文化学園大学

ミュージアムIT屋さん、現場を往く！
「届くデジタルアーカイブ」の実現へ
Face to Face で伝える試み

新機能プレビュー
I.B.MUSEUM SaaSの最新追加機能
入力コード機能

ミュージアムITトピック
＜MAPPS GATEWAY＞
サービス開始3か月の現状報告

お知らせ
アプリ用リーフレット300部を期間限定で無料進呈！



参加レポート

「デザイン・アーカイブ」に フォーカスしたシンポジウム

最近、デジタルアーカイブについて、さまざまな方面から注目が集まるようになってきました。文化資源の国家的なデジタルアーカイブ事業となる「ジャパンサーチ」構築から、自社のアイデンティティの継承などを目的とした一般企業アーカイブまで、図書館や博物館以外でも多数のプロジェクトが動いています。

今回のシンポジウムでは、デザインに関するアーカイブ構築を想定した討論が行われました。文化資源の保存という視点だけでなく、デジタルアーカイブは「ひとつの産業分野に対してどのような貢献を果たすことができるのか」という側面からの考察など、非常に意義深いものでした。

会場では、デザインを「プロダクト」「グラフィック」「ファッション」の3分野に分け、それぞれの担当大学が調査した成果が発表さ



れました。デザインに特化したアーカイブの構築という事業は、前例がない分だけ解決困難な課題が横たわると考えられています。今回の調査結果には克服に向けての光明が見えたような内容が含まれており、場内は明るいムードに包まれました。

その熱気は、質疑応答のコーナーにも引き継がれました。登壇者と来場者の間で熱のこもった議論が繰り広げられるなど、参加者は誰もが熱意十分。将来、「デザイン・アーカイブ構築に向けた出発点のひとつになった」と評価されそうなシンポジウムでした。

文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業報告
シンポジウム 日本のデザイン資源を考える
平成30年1月20日(土) 文化学園大学

ミュージアム | T屋さん、現場を往く！



事例研究

「届くデジタルアーカイブ」の実現へ Face to Face で伝える試み

「どう利用者を集めるか」

デジタルアーカイブの課題は克服できるか

「地域文化のデジタルアーカイブ」は、郷土愛の醸成や地域学習の促進といった導入効果が謳われますが、果たしてそれは本当でしょうか。構築例はよく耳にしても、実測的な効果の事例をあまり見かけない理由は…？

たとえば、郷土愛の醸成なら、対象となるのはその地域の方々であり、歴史家や研究者ではありません。しかし、多くのデジタルアーカイブは、検索時に相当な予備知識を要求します。地域のデジタルアーカイブは郷

土の歴史に触れることができるはずなのに、高度な専門知識を有していることを前提としたインターフェイスでは、一般利用ではなく学術利用のデータベースになってしまいます。「一般の方々に見てもらう」には、逆方向のベクトルのチャレンジが必要となるのです。

また、情報の大海であるインターネットの中では、「見てもらえないサイト」は即座に埋めれます。誰もがほぼ無制限に情報を発信できるのでから当たり前ですが、インターネット上で地域のアーカイブを見つけてもらうには、閲覧者をページにお連れするまでの「動線」が必要となります。

なお、こうした地域情報のアーカイブに関心を示しやすいのが、他の年齢層と比較してインターネットとは縁遠いと考えられる高齢者が中心になると推測できることも、課題のひとつと言えるでしょう。パソコンやタブレットPCを持っていない、あるいは持っていてあまり使わない層に対し、デジタルアーカイブの魅力をどう伝えたらよいのでしょうか…？

難しい課題となりますが、何とか乗り越えようとする事例もあります。そこで今回は、デジタルアーカイブをリアルイベントで採り上げながら、その便利さの体験を呼びかけた事例をふたつ、ご紹介します。

1

平成29年度上島町文化財講座 いま話題のデジタルアーカイブ ～最前線とその楽しみ方～

平成29年4月に「上島町デジタルアーカイブ」を公開した愛媛県上島町。開設から1年近くを経た平成30年2月の「文化財講座」では、地元の方々に向けたデジタルアーカイブに関する講演会が開催されました。

25もの島からなる上島町は、幾重にも連なる島々と、その風土によって培われた穏や

かな情景が特徴です。そこで、デジタルアーカイブのページの上の階層に、上島町の魅力がひと目でわかる「表紙」ページを作成。アクセスすると、上空からドローンで島々を撮影した空撮映像が流れる中、表紙ページにデジタルアーカイブへの入り口となる各種コンテンツが設けられています。

デジタルアーカイブは、通常の検索ページのほか、別に用意されたジャンルからワンクリックで検索できるようになっています。ジャンルは「特集」的な扱いで今後も増やしていく予定とのこと。また、上島町らしく、島のイラストから検索することもできます。見たい島を選ぶと、町のイメージキャラクター「かみりん」



がその後の操作を案内してくれます。

さて、この日の文化財講座のテーマは、「デジタルアーカイブとは」「デジタルアーカイブの動向」「上島町デジタルアーカイブ」の3点。上島町の昔の写真や生活道具などのページが紹介されるたびに身を乗り出して見入る方、ニコニコと懐かしそうに微笑む方など、会場は熱気いっぱい。また、資料の実物も

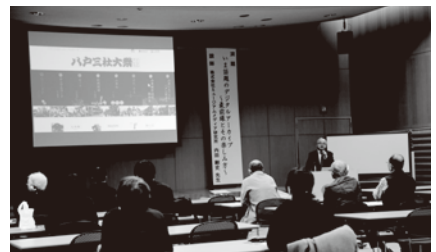
展示され、データベース内の情報と見比べる…という企画も。アンケートでは、みなさん大いに刺激受け、満足して帰られたことがよく分かる結果が得られました。

当日の質疑応答タイムには、「足が弱って出かけることが難しくなったお年寄りに、行った気持ちにさせられるようなデジタルアーカイブを」という要望も寄せられました。過去を



上島町デジタルアーカイブ
www.kamijima-archive.jp/

語ることで精神が安定し、認知機能の改善も期待できる心理療法のことを「回想法」と言うそうですが、最近はそのプログラムの実施にミュージアムの収蔵資料を活用する事例もあるとか。図らずも「高齢者福祉の目からのデジタルアーカイブ」のヒントも得られ、非常に実りの多い講座となりました。



2

デジタルで知る ふくいの歴史・文化 「FUKUI MUSEUMS」先行公開イベント



「FUKUI MUSEUMS」は、福井県の県立4ミュージアムのデジタルアーカイブを統合的に公開するウェブサイト。デジタルアーカイブのページでは、テーマや所蔵館からデータベースを検索できるようになっています。

面白いのは、ほかではあまりお目にかからないテーマ設定が導入されている点です。地域の企業や病院を紹介する商工便覧、地元のお祭りである「田の神祭り」、明治から昭和初期にかけての広告チラシである引札、福井

を代表する紙漉き職人・岩野平三郎の資料や一乗谷朝倉氏遺跡の資料…などなど、いずれも知的好奇心をかき立てられるようなものばかり。パラパラめくっていくだけで時間がどんどん過ぎていきそうな、充実のコンテンツが提供されています。

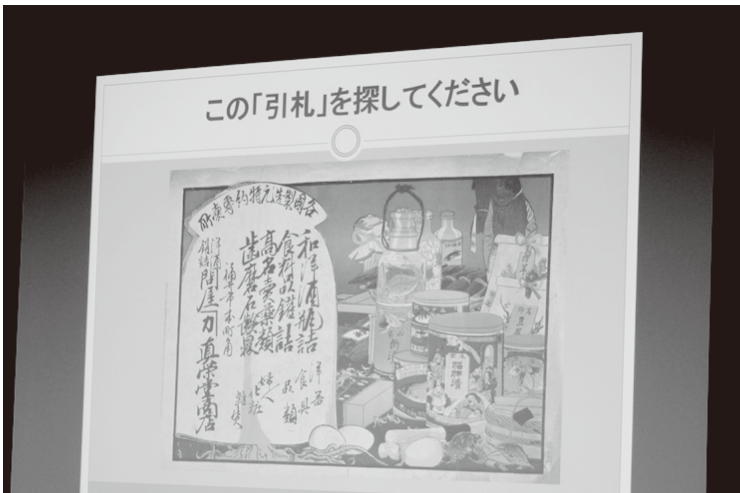
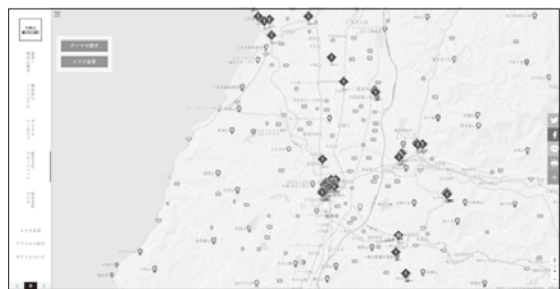
また、サイト内には、地図からデジタルアーカイブへアクセスできる「歴史文化スポットマップ」や、学芸員が資料について語る「よもやま話」というコラムのコーナーもあります。サイト公開時点で、よもやま話が実に25本も並ぶなど、「情報を発信したい」という意欲がそのまま伝わるサイトになりました。

さて、このサイトでは、運用開始の1か月前に限定的に公開するプレビューイベントが実施されました。参加者から意見を募ってサイトの仕上げに反映させようという試みで、当

日は「デジタルアーカイブを検索すれば答が分かる」という趣向のクイズ大会も開催。担当の学芸員がとても周到に準備した甲斐あって、大盛り上がりとなりました。

ちなみに、このクイズ大会は、イベントの余興という意味合いを大きく超える効果を発揮していました。「答をネットで探す」ことを前提とした地域ネタのクイズなので、デジタルアーカイブの楽しさがストレートに伝わりま

す。参加者の皆さんが、出題者からヒントや検索のコツを聞きながら、持参のスマートフォンで熱心にデジタルアーカイブを検索する姿は、とても印象的でした。



 **FUKUI MUSEUMS**
<http://fukui-archive.com/>



デジタルアーカイブを届けるアクションとは

学術系ユーザー以外の方々に広く利用していただけるデジタルアーカイブサービスへと育てるには、告知活動が欠かせません。けれども、インターネット上では、ありとあらゆるサイトがアクセス数アップへの工夫で鎬を削っていますので、その中で目に見えて効果が出るようなアピール策を考えることは容易ではありません。しかしながら、方法によっては、さほどお金をかけなくても人々の注目を集めることができる…。そんなヒントになるのが、このふたつの事例です。

実際、インターネットサービスを「人々に集まってもらう場を作ってPRする」というアナログ的な発想は、割と見逃しやすいアイデアのひとつと言えるでしょう。その場に参加した方への告知だけでなく、彼らに「楽しかった」「ためになった」という感想を抱かせることができれば、口コミでも広がりやすいはず。特に「スマホでのカンニングを競うクイズ大会」というのは、まさに逆転の発想となりました。

知的好奇心もそうですが、デジタルアーカイブ普及のカギとなるのは、やはり「熱意」や

「アイデア」など、人間のアナログな部分。そんなことを実感するイベントとなりました。



I.B.MUSEUM SaaS 新機能情報



I.B.MUSEUM SaaS 新機能

入力コード機能

次々と新機能を搭載し続けている博物館クラウド<I.B.MUSEUM SaaS>ですが、先ごろ、また新たな効率化への武器の数々が実装されました。今回は、そのうちのひとつをご紹介します。

「入力コード機能」は、広い意味での辞書機能となります。ある項目を入力した際、その項目によってほかの項目が自動的に決定されるようなケースに使えるものです。

少し分かりにくいので、具体例を挙げてみましょう。たとえば、和名で「ノコギリクワガタ」を選択入力するとしましょう。この際、「目(和名)」という項目には「カブトムシ亜目」、「科(和名)」という項目には「クワガタムシ科」が自動的に入ってくると、入力是非常に楽になるはずです。

入力コード機能は、このように「ひとつの項

目を選択入力する際、付帯する情報をあらかじめセット項目として用意しておけば、一緒に呼び出して自動的に入力する」という機能になります。自動で埋める欄の内容を含め、セット項目の追加は自由ですので、作業しながらユーザ辞書的にお使いいただければ、どんどん使いやすくなっていくことでしょう。

右の画面は、例示の通り和名で「ノコギリクワガタ」を選択入力した例。アシスタント機能も用意されていますので、気軽に使いこなすことができます。博物館クラウドでは、こうした「使えば使うほど使いやすくなる」という拡張性・将来性につながる新機能を今後もどんどん実装予定。なお、以下の通り、今後は機能追加の内容と時期を事前に告知する方向で調整に入っておりますので、こちらもぜひご期待ください。



登録アシスタントを使ってラクラク入力！一度登録しておけば、あとは呼び出すだけで項目が一気に埋まるというイメージ操作を実現！

今後の機能開発ロードマップについて

早稲田システム開発では、平成30年度より博物館クラウド<I.B.MUSEUM SaaS>の半期ごとの追加機能開発計画を公開することといたしましたので、ここにお知らせいたします。

<I.B.MUSEUM SaaS>では、これまで機能追加を随時行ってきました。

ユーザ館の皆様からさまざまなご要望をお聞きする中で、原則としてニーズが高いと思われるものから実装しておりますが、追加機能は契約に基づく納期が設定されているわけではないため、スケジュールなどにつきましては弊社判断で実施しております。

この開発姿勢そのものは今後も変わるわけではありませんが、どんな機能がいつごろ搭載されるのかについて、可能な範囲で事前にお知らせするために、年度の初めに、上半期・下半期それぞれの開発計画を開示することとしたものです。詳細は追って告知いたします。

ミュージアムITトピック



現時点では日本最大の文化資源横断検索サイト ＜MAPPS GATEWAY＞ サービス開始3か月の運営報告

弊社が提供する博物館資料情報の横断検索サービス、＜MAPPS Gateway＞。当
面は、＜I.B.MUSEUM SaaS＞で作成され
た公開ページを対象に、フリーワードによる
横断検索サービスとして運営を開始してか
ら、約3か月が経過しました。

たとえば「北斎」で検索すると、全国の利用
館がそれぞれに所蔵する葛飾北斎の作品や

文献がヒットし、＜MAPPS Gateway＞内
で検索結果が一覧形式で表示されます。そ
のうちひとつの資料を選ぶと、その情報の
データ公開元となっている館（機関）のペー
ジに遷移する仕組みとなっています。

当サービスは、各分野の専門家や研究者
はもちろん、一般の方々に「ミュージアムの魅
力を伝える」ことを大きな目的として掲げてい

ます。そこで、検索サービスとともに、各館が
公開中のアーカイブのレビューや展覧会の
鑑賞日記など、万人にわかりやすい読み物な
どのコンテンツを併載。コレクションを中心
に、日本のミュージアムの楽しさについて気
付きを促すサイト作りを目指していきます。

今回は、この関連コンテンツについて、改
めて概略をお知らせいたします。

ただいま連載中！＜MAPPS Gateway＞の特集コンテンツ

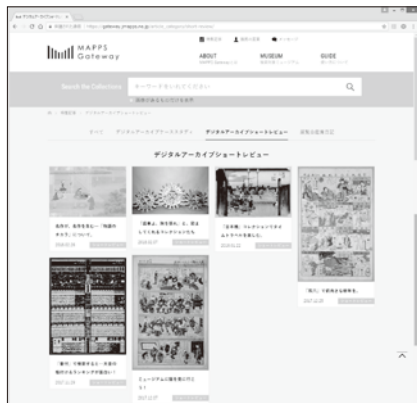


特集コンテンツ① デジタルアーカイブ・ショートレビュー

「コレクション・データベースのソムリエ」と
も言える識者の方々、それを目指している弊
社スタッフが、＜MAPPS Gateway＞の面
白い使い方や注目のコレクションを紹介する
コーナーです。キーワードの入れ方ひとつで
結果が変わったり、びっくりするようなコレク
ション情報を見つけたり…。これまで、「番

付」「猫」「双六」「日本橋」「歯車」「物語」を
テーマに、さまざまな資料を紹介しました。

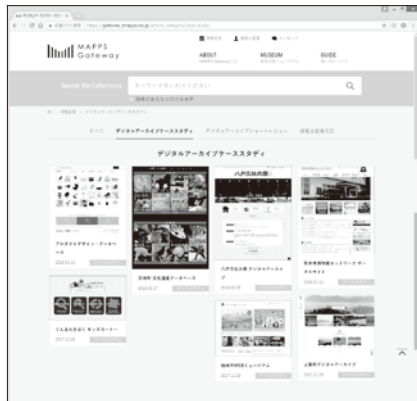
サイトを訪れる人に、ミュージアムは驚きと
感動の宝庫であることをお伝えしたいと思っ
ています。紹介する際には、そのデータの公
開館に可否などを確認させていただきます
ので、ぜひご協力をお願いいたします。



特集コンテンツ② デジタルアーカイブ・ケーススタディ

インターネットは情報の洪水。ミュージア
ムのコレクション・データベースや文化財の
デジタルアーカイブは、単にインターネット上
に置くだけではなかなか人々に届きません。
では、どうすれば、人でも多くの方に届け、そ
の価値を知らせることができるのでしょうか。
このコーナーでは、さまざまな「届けるため

の努力」の現場取材し、レポートしていま
す。コレクションの傾向や土地柄、施設のタ
イプなど、それぞれに異なる館の例をご紹介
します。今回掲載した上島町文化財講座や
「FUKUI MUSEUMS」先行公開イベントの
ような事例も取り上げていく予定ですので、
ぜひご参考に。



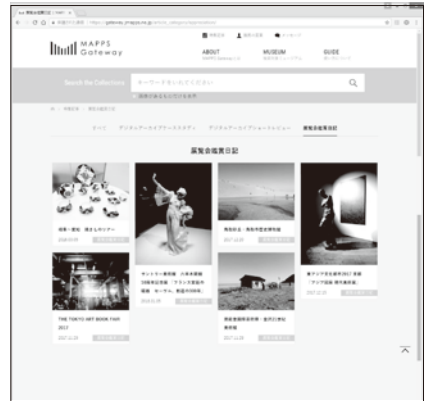
特集コンテンツ③ 展覧会鑑賞日記

ミュージアム好きの弊社スタッフは、プライ
ベートでも各地の展覧会に足を運んでいま
す。そこで、いつもの仕事モードから離れて、
一鑑賞者の立場からさまざまな展覧会をレ
ポート。中にはすでに終了した展覧会の記事

もありますが、サイト閲覧者に「ミュージアム
の楽しみ方」を伝えたいという思いで、気軽な
読み物として紹介してまいります。
皆様の館にもお邪魔することがあると思い
ますので、ぜひよろしく願ひいたします。



MAPPS Gateway
<https://gateway.jmapps.ne.jp>



「デジタルアーカイブ・ショートレビュー」の原稿作成を通して分かった 資料データをもっと見てもらうためのポイント

＜MAPPS Gateway＞にまつわるア
クセス数推移をチェックしてみると、「も
ともと閲覧数の多いWEBメディアで採り
上げられた直後に、一時的にアクセスが
跳ね上がる」傾向が見られます。つまり、
第三者であるメディアに紹介されると閲
覧者は急増することになるわけです。

特集コンテンツのうち、「デジタルアー
カイブ・ショートレビュー」については、
弊社が「取り上げる側」「メディア側」に
なります。＜MAPPS Gateway＞内で
使用した検索キーワードのうち、「何を基
準に紹介するテーマを選んだか」を振り
返ると、自分が「できるだけ閲覧者（読
者）に関心を持ってもらえそうなものを」
と考えていることに気がきます。

当コーナーは、まだまだ認知度不足で
強い影響力を持っているわけでもありま
せんが、「その資料を紹介する書き手」と
しての観点で作業を行っています。その
意味では、取り上げるメディア側と同じ
立場ですので、原稿を作成する第三者と

しての経験から、ミュージアムのデー
タ公開時のご参考になりそうな話をいく
つかご紹介します。

まず、「画像」は絶対にあった方が良い
と考えます。当コーナーでも、「その資料
の面白さを読み手が一瞬で分かるもの」
という主旨から、自然と画像があるものに
絞って選ぶことになっています。書き手も
読み手も問わず、データに接触する一般
閲覧者の大半は「その先を見るかどうか」
を瞬時に判断するため、画像がなければ
そのデータを飛ばして次を探しに行っ
てしまう。そう考えて間違いないと思い
ます。

それから、「解説」も用意した方が良い
でしょう。懇切丁寧なものでなくても、ほ
んの一言でも説明が載っていれば、メ
ディア側の書き手は紹介しやすく感じる
ものです。実際、「デジタルアーカイブ・
ショートレビュー」の原稿作成時には、
解説に書かれていたひとことでイメージ
をつかめたため取り上げることにする

ケースがとて多いです。

原稿を作成する際、「紹介するか、しな
いか」の分かれ道が画像と解説の有無
になるケースは、想像以上に多いです。
繰り返しになりますが、資料に付与する
解説は、しっかりした原稿でなくても大
丈夫です。画像だけでは分からない資料
も非常に多いですから、ほんの10文字
程度の「ひとこと解説」でも、説明があれ
ば「いま作成しようとしている原稿の中
でどう使えるのか」についてのガイドにな
り得るのです。

たとえ解説がなかったとしても、その
資料の存在をインターネット上に公開す
る意義は十分にあります。ただ、第三
者がその資料を自分の原稿に使えるかど
うかを判断する上では、その書き手自身
が「それが何か」を理解する必要があります。
「そのひと手間がブレイクのきっかけ
だった」ということもあるかもしれませんが、
ほんの少しでも情報の肉付けを心
がけていただければと思いました。